

町議4期16年 命とくらしを守る

さんから「そんなに文句があるなら安塚へ帰れ」というヤジが飛びました。しかし、ここでひるんだらお母さんたちの願いが届かないと、ならみかえし、とうとう保育料の引き下げを実現させました。

欠かさず発行した

「くみちゃんだより」

子育てや夫の父を介護しながらの活動は目がまわるような忙しさ。そんななかで、町民のみなさんから聞きした願いを議会できちんとお知らせする活動に力を入れてとりくみました。毎週欠かさずに十二年間発行し続けた「くみちゃんだより」は、「町政のことがよくわかる」と町民のみなさんから喜んでいただきま

くみ子さんに 期待します

鳥居川の決壊の水害(95年)のとき、佐藤さんはスコップを持って土砂の片付けに駆けつけ、一緒に苦労してくれた。復旧のための要求もたくさん聞いてくれた。私は共産党が嫌いだったが、それを見て考えを変えました。(蟹沢・男性)

初めての選挙のときに、田んぼの土手を飛び降りて握手していた姿は今も変わりませんね。これからも持ち前の元気さでがんばってほしいと思います。(大倉・女性)

知らないところへ来て苦労をなさって16年も町会議員としてがんばってくれた。その佐藤さんだから私たちの気持ちをわかってくれると思います。(石・80歳・女性)

よろず相談六百件

また、本当に困ったときに頼っていただけの議員になりたいと、自宅の前に「よろず相談所」の看板を出し、約六百件のさまざま相談のつてきました。

オリンピック関連の建設事業で下請けとして工事をしながら、代金を払ってもらえなかった業者さんには、住む所や働き口のお世話をさせていただいて自己破産も回避することができました。



新潟中越大地震では震災後3日目に現地入り。リンゴや水など支援物資を届けながら、泊まり込んで救援活動に参加。

(写真は昨年10月26日・小千谷市)